

こどもが まんなか

いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信
No.5 令和5年10月17日発行

発行・編集
岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)
本通信は岩手県 HP からダウンロード
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてっこ～自分の体を十分に動かして、遊ぶ楽しさ・心地よさを味わう！～

子どもたち一人ひとりの“健康な心と体”を育むため、成長に合わせた遊びや生活を見守り援助する保育者。春、夏、秋と季節ならではの外遊びをとおして、どんどん活発になっていく子どもたち。“今の自分もっている心身の力”を存分に発揮し、意欲をもってやろうとする気持ちが育ってきています。また、自分から環境に関わって、多様な動きのある遊びを楽しんでいます。

5月の5歳児。外でサッカーを始めました。チーム分け、ボールの操作、ルール決め等についてゲームを楽しみながら経験することが、様々な学びにつながっています。(保育者は、審判役をしながら調整役も行っていました。)



6月の5歳児。外で鬼ごっこが始まり、空間を上手に使った、逃げる・追いかける姿がみられました。つかまるかもしれないというドキドキ・ワクワクの気持ちが、走ったり、止まったり、相手をかわしたりする動きの原動力になります。鬼決めを話し合うことも、友達との関係づくりにつながりますね。(保育者も走る!)



3歳児、近くの公園で、自分の背より高い鉄棒に挑戦! 頑張っただら、足がちょっとだけ浮きました!



2歳児「ここまでおいで～」のかけ声に満面の笑顔で、広げた保育者の手の中にゴール!!



8～9月の5歳児。運動会に向けての取組では、自発的に活動する姿や、楽しかったことを自分たちで再現して遊ぶ姿が見られ、たくましい成長を感じます!



生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で、心と体を十分に働かせて生活することによって培われていくものである。健康な幼児を育てることは、単に身体を健康な状態に保つことを目指すことではなく、他者との信頼関係の下で情緒が安定し、その幼児なりに伸び伸びと自分のやりたいことに向かって取り組めるようにすることである。(幼稚園教育要領「健康」 p145 より一部引用)



「やってみたい」につながる



運動会で3歳児が楽しんだ「玉入れ」。運動会後は5歳児のブームになっています。はじめはみんな一緒に楽しんでいましたが、「5歳児は遠くから投げることにしようよ」という提案があり、円を描いて年齢ごとに玉を投げる位置を変えることにしました。異年齢との関わりの中で、相手のことを思いやる気持ちが生まれています。



幼児期の終わりまでに 育てほしい姿

| |
|-------------------------|
| (1)健康な心と体 |
| (2)自立心 |
| (3)協同性 |
| (4)道徳性・規範意識の芽生え |
| (5)社会生活との関わり |
| (6)思考力の芽生え |
| (7)自然との関わり・生命尊重 |
| (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| (9)言葉による伝え合い |
| (10)豊かな感性と表現 |

意見の食い違いでトラブルが発生。集まって意見を出し合います。

“どうすればもっと楽しいか” みんなで考えよう。



「すごい入ったね。」
「どうすれば数わかりやすい?」「集める?」
「10にしてみる?」

今回のテーマは、主に(1)(2)(3)(6)(8)(9)(10)の育ちにつながっていきます。

子どもたちの遊びの延長線上にある「運動会」は、当日が終わっても遊び継がれていきます。5歳児に混ざって、小さい子どもたちが、憧れのリレー遊びを楽しむ姿は微笑ましいものです。5歳児は、園の中心になって大きな行事をやり遂げた喜びと自信で、キラキラと輝いて見えます。みんなで1つになって取り組んだことで、クラスとしてのまとまりも感じられるようになりますね。小さい子どもたちは、そんな5歳児を見て「次は自分も!」と意欲をもつことでしょう。

数量への興味関心につながる感覚を養う

実りの秋ですね。訪問支援で訪れた園にもさつまいもやクリやどんぐり、ニンジンやダイコンやカボチャなど、様々な秋の実りが並んでいます。

「どっちが大きい?」「僕のが一番太いよ」「私の方が長いもん」「持ってみて、すごく重いから」と自分たちが収穫した宝物を比べっこする姿が見られますね。<重いけれど短い><長いけれど細い><中くらいだけど太い><大きくて太くて重い>こんな子どもたちのもつ感覚は、数量への興味関心につながる大事な感覚だと思います。

保育者の環境作りや援助で、感覚の見える化を図ってみてはいかがでしょうか。



～後期の訪問支援が始まりました～

後期も、県内各地からたくさん訪問支援の申し込みをいただき、ありがとうございます。訪問先でたくさんの“キラキラ”や“わくわく”の子ども姿を見つけて、この「いわてのWAっこ」紙面で紹介していきます。ご期待ください。

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。